



SIMOT Research Center NEWS LETTER



No.26 2007.11

東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学リサーチセンターニューズレター

目次

● トピック

グローバル時代のイノベーション戦略

● イベント報告

IT のインスティテューション受容性調査ミッションの来訪
大連理工大学・東工大協力協議

産業における知識と学習
- アカデミー・政府共同システムイノベーション

研究・技術計画学会第 22 回年次学術大会
インテレクチャル・カフェ国際シンポジウム
経営行動科学学会第 10 回年次大会

● 海外活動報告

豪州工学アカデミー年次総会

イノベーションと競争力に関する
専門家会議 (APO)

● コラム

論理と論理パズル

● 最近の動き

● イベント予定

● 連絡先

トピック

MOT 特別セミナー「グローバル時代のイノベーション戦略」 (2007年10月19日 東工大 デジタル多目的ホール)

SIMOT と密接に連携し、日本型 MOT の教育・研究を行う東工大大学院イノベーションマネジメント研究科 (IM 研究科) の主催で「グローバル時代のイノベーション戦略」をテーマとした MOT 特別セミナー (SIMOT 後援) が開かれました。

ボーダーレスなネット社会の出現、中国・インドの急速な発展など、ビジネスのグローバル化が加速するなか、経営のグローバル化およびグローバルな視点からのイノベーションが日本企業の課題となっています。

こういった問題意識の下、本セミナーでは、基調講演として桑島正治日興コーディアルグループ社長に「グローバル時代のサービスイノベーション」と題したご講演をいただき、また IM 研究科客員教授および SIMOT リサーチセンター評価委員の倉重英樹氏 (RHJI インダストリアル・パートナーズ・アジア社長)、関 誠夫氏 (千代田化工建設株式会社社長) から、それぞれ「日本企業のイノベーション課題」、「エンジニアリング企業のグローバルビジネス戦略」をテーマとした特別講義をいただきました。社会人を中心に参加者は 200 名を超え、グローバルな MOT 戦略に対する関心の高さが伺われました。



■ イベント報告 ■

IT のインスティテューション受容性調査ミッションの来訪

(10月31日(水) 東工大 西9号館 414号室)

オランダ アムステルダム大学経営大学院 ヴリース教授の率いる6名のメンバーで構成する標記ミッションが本学に来訪し、セキュリティやコミュニティにおける通信へのITの導入に関わる「インスティテューション受容性」について、3時間にわたり渡辺センター長と意見交換を行いました。同ミッションは、本命題に関する産・官・学の専門家で構成し、社会・経済・文化・伝統・習慣等のおよぼすインパクトの調査を模索していたところ、欧州アカデミー組織からSIMOTの存在をアドバイスされ、真っ先にかけてきた、とのこと。同ミッションは、とくに伝統文化に視点をすえて引き続き調査を行うべく、京都に移動しました。



大連理工大学・東工大協力協議

(11月7日(水) 東工大 西9号館 318号室)



SIMOTの提起した「イノベーションとインスティテューションとの共進ダイナミズム」というテーマは、世界的にも大きな関心を惹起しており、グリーンシリコンバレーを標榜する大連ハイテクパークを対象にしたSustainable Innovationに向けての共同研究が行われているのもその表れです。9月の渡辺センター長訪中の折の議論(News letter No. 25 参照)の深化を目的に、11月には、上記共同研究パートナーである王众托教授が来日し、大連理工大学・東工大協力協議を兼ねたワークショップを行いました。

王教授は、大連理工大学経営大学院教授であると同時に、知識科学技術研究センター所長も務める、この分野の中国における第一人者です。ワークショップにおいては、協力協議におけるSIMOTの貢献への期待を強く語られたほか、SIMOT若手研究者の研究報告への意見等も述べられ、活発な議論が展開され、具体的な協力活動が大きく進みました。

発展著しい中国・大連のイノベーション研究の第一人者とのワークショップは、SIMOTの研究を更に深化させ、若手研究者への知的刺激となりました。



産業における知識と学習 アカデミー・政府共同システムイノベーション (11月7日(水) 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会国際問題分科会11月例会では、王众托教授に、上記大連理工大学・東工大協力協議の機会に併せて、「産業における知識と学習」というテーマでご講演をお願いしました。Knowledge Managementの観点から、イノベーションシステムにおける4つの新しいフレームワーク(Exploring System, Choice System, Searching System, Production-learning System)の提示があり、暗黙知から形式知への変化を促すシステムについて論じられ、同システムにおける産官学の役割について、中国の実例をもとに説明されました。

中国の思想を背景とした王教授のイノベーションのとらえ方は、イノベーションにおける知識環境に関する新たな視点を提示ものであり、SIMOTの研究に対する示唆に富んでいました。

研究・技術計画学会第22回年次学術大会

(10月27日(土)、28日(日) 亜細亜大学)

亜細亜大学において、研究・技術計画学会年次学術大会が開催されました。同年次学術大会は、19回大会がSIMOTの研究分野と関連付けた「日本型技術システム再考」とのテーマで開催されるなど、SIMOTとは研究分野において密接な関係があります。今年度は、研究・教育のグローバル化を踏まえ、来年度のIEEEとの共同シンポジウム開催の予行としてEnglish Sessionを設け、外国人研究者・留学生の研究報告を奨励しており、SIMOTからは4名の留学生若手研究者が登録・研究報告を行いました。同様に、SIMOT事業推進担当者・特任教授・若手研究者、事業推進協力者など、多数のSIMOT関係者が研究開発・科学技術のマネジメントについてそれぞれ研究を発表しました。



インテレクチャル・カフェ国際シンポジウム

(11月8日(木)、9日(金) 経団連会館)



イノベーションの創出において、イノベーションの要としての「知識の融合」を可能にする場・環境の設定は大変重要となります。同分野に関する産官学一体となった研究の一環として、「インテレクチャル・カフェ」(知識の融合が生まれやすい場と環境)の試みがなされており、今次シンポジウムでは、その研究内容の紹介および検討が行われました。SIMOTからは、センター員 妹尾大准教授が、プレナリー・セッション議長として参加し、専門分野のひとつである知識の創造に関連した「知識創造を誘発するクリエイティブ・オフィス」について討論を行いました。

経営行動科学学会第10回年次大会

(11月10日(土) 立教大学)

渡辺センター長は、11月10日、標記年次大会で「ハイブリッド技術経営の本質」と題する基調講演を行い、SIMOTの考えに立脚した技術経営の時代的課題を示し、10周年の節目を迎えた同学会への新風として、活発な議論を喚起しました。



海外活動報告

豪州工学アカデミー年次総会

(2007年11月19日 パース)

渡辺センター長は、11月19日、日本工学アカデミーを代表して、標記年次総会に出席しました。センター長の同総会への出席は、2001年来7年連続になるもので、豪州のアカデミーメンバーとインスティテューショナル・イノベーションについて突っ込んだ討論を深める事ができました。特に今回の出席は、11年ぶりの労働党政権移行前夜の豪州インスティテューションを目の当たりにする格好の機会ともなりました。

アジア生産性機構(APO)「イノベーションと競争力に関する専門家会議」(2007年11月20-22日 シンガポール)

渡辺センター長は、8月に続き、シンガポールで開催された標記専門家会議に出席し、インスティテューショナル・イノベーションの考えに立脚した、アジア諸国のイノベーションを通じた競争力戦略構築に貢献しました。「イノベーションとインスティテューションとの共進ダイナミズム」は、まさに洋の東西・南北を問わぬ世界的なうねりとなりつつあります。



コラム

「論理と論理パズル」

SIMOT リサーチセンター員

東京工業大学大学院社会理工学研究科教授 水野眞治



脳を鍛えることができるということであろうか、論理パズルあるいは数学パズルが巷で少しブームとなっているようである。我々が子供のころには、論理パズルというと多湖輝著の「頭の体操」という本のシリーズがあり、一時熱中して読みふけた記憶がある。最近では多くの論理パズルに関する本が発行されており、ゲーム機のソフトあるいはテレビ番組等にも、論理パズルなど頭を使うものが増えてきているような気がする。論理パズルは、論理学を基礎として作られていることが多いようであるが、中には論理的に考えるとおかしいものも時々含まれているようである。論理パズルの本を読んでいると、たとえば「ある文とその否定文がともに正しいような文が存在するか」といった問題があり、そのような例文が答えとして載っていたりする。論理学では、正しい(真である)か正しくない(偽である)か判定できる文を命題と呼び、その命題と真偽が逆になる命題をその否定という。したがって、論理学においては、ある命題とその否定がともに真となることは絶対にありえない。つまり、論理パズルにおける文の否定と論理学における命題の否定とは、意味が異なるようである。このようなことに注意する必要もあるが、パズルなどを介して、論理的な思考をすることが一般に受け入れられているということは、非常に喜ばしいことである。



工大祭オープンキャンパス 君たちはビル・ゲイツになれるか 2007 (10月27日(土)、28日(日) 西9号館)

東京工業大学文化祭 (工大祭) 参加イベントとしての東工大 COE 拠点紹介のパネル展示の関連企画として「インスティテューショナル技術経営学」の紹介を兼ねた「君たちはビル・ゲイツになれるか 2007」を実施しました。次世代の研究・教育リーダーたる高校生を対象に、SIMOT の研究内容紹介の他、昨年にかけてエニアグラムを用いた 10 分間の性格診断テストを行い、また進路相談に応じました。性格診断では、ベンチャー起業家 18 名の試行データとの比較を通じて、参加者の実践的な起業・経営に対する適性を診断しました。高校生のみならず、社会人、大学 OB・OG など、両日あわせて約 300 名の来客を得て大盛況となりました。



最近の動き

● 海外出張

飯島 12月9日～13日 モントリオール (ICIS 2007: International Conference on Information Systems)
 12月15日～18日 韓国 (KAIST にて講義予定)
 渡辺 12月22日～1月2日 ウィーン (国際応用システム分析研究所(IIASA))

イベント予定

研究・技術計画学会 国際問題分科会 12月例会

日時 12月12日(水) 18:00～21:00

場所 東京工業大学 百年記念館 第1会議室

テーマ 日本型の教育研究システムは如何に形成されたのか: 伝統文化・歴史的背景の考察
 - インスティテューショナル技術経営学への示唆

講師 上野 晴樹 氏 国立情報学研究所 名誉教授

アジア地域における国際的産学官連携シンポジウム

日時 12月20日(木) 13:00～18:00

場所 東京工業大学(大岡山キャンパス) デジタル多目的ホール

参加費 無料

詳細はこちらhttp://www.mot.titech.ac.jp/data/event_2007_12_20_i.pdfをご覧ください。

● ● 発行 ● ●



東京工業大学 21世紀 COE プログラム
 「インスティテューショナル技術経営学」 SIMOT 事務局

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51
 東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内
 西9号館 208B号室

TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250

Email: yoshino.m.ad@m.titech.ac.jp

URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/>

編集者: 菊池 隆